

議事録要旨

会議名	平成 29 年度第 1 回あわら市地域ブランド戦略会議
開催日時	平成 29 年 9 月 19 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00
開催場所	あわら市役所 3 階正庁
出席者 (敬称略)	<p>【委員】(10 名) あわら市 / 橋本達也 (市長)、あわら市商工会 / 赤尾政治 (副会長)、あわら市観光協会 / 前田健二 (会長)、花咲ふくい農業協同組合 / 小西敏夫 (代表監事)、(株) 金津技研 / 伊藤憲治 (代表取締役)、福井工業大学 (デザイン学科) / 川島洋一 (教授)、(株) 福井銀行芦原支店 / 長谷川慎治 (支店長)、あわら市地区区長会連絡協議会 / 長谷川巧 (副会長)、あわら市 / 前川嘉宏 (副市長)、あわら市教育委員会 / 大代紀夫 (教育長)</p> <p>【専門部会】(2 名) 笹原修之 (芦原温泉駅まちづくりデザイン部会・部会長)、五十嵐平 (ブランド専門部会・部会長)</p> <p>【オブザーバー】(3 名) (株) 大広北陸 / 芦澤邦夫 (支社長)、越智健一、上野耕平 (記)</p> <p>【事務局】(9 名) あわら市総務部 / 城戸橋政雄 (部長)、あわら市土木部 / 小嶋範久 (部長)、鳥山公裕 (理事)、あわら市総務部政策課 / 武田正彦 (課長)、藤田由紀 (課長補佐)、山崎公聖 (主事)、あわら市土木部新幹線まちづくり課 / 永井宏昌 (課長)、山本紹央 (課長補佐)、赤神貴幸 (主査)</p>
欠席者 (敬称略)	<p>【委員】(2 名) 福井工業大学 / 下川勇 (准教授)、芦原温泉旅館協同組合 / 伊藤和幸 (理事長)</p>
協議事項	<p>(1) 地域ブランド確立事業について (ブランド専門部会) (2) 芦原温泉駅周辺まちづくりデザイン事業について (芦原温泉駅まちづくりデザイン部会)</p>
会議内容 の要旨	<p>会長： 平成 28 年度は地域ブランド確立事業において、地域ブランドスローガンの決定、あわらの魅力を余すことなく表現したステイメントや市内外に波及するロゴマークを作成しました。また芦原温泉駅周辺まちづくりデザイン事業では、全世帯を対象にして行ったあわらの未来づくりアンケートや市民ワークショップを行い、広くあわら市民の皆さまから広くご意見を頂くとともに芦原温泉駅周辺将来デザイン市民投票を受けて、駅周辺将来デザインを決定することが出来ました。今年度はこれらをまちづくりにいかに生かしていくかが重要。 「あぁ、あわら贅沢。」のブランドスローガンを効果的に発信する魅力発信事業の取り組み状況や今年度に設立した芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会におけるまちづくりと賑わい創出の進捗についてご報告がございませう。次年度以降の事業展開も見据え、委員の皆さまのご意見や慎重なるご審議をお願い致します。</p>

議事録要旨

(1) 地域ブランド確立事業について

事務局／ブランド専門部会の地域ブランド確立事業について説明と報告

都会にはない贅沢のあるまちをブランドコンセプトに「ああ、あわら贅沢。という」ブランドスローガン、今年4月には情報発信ツールの一つとして構築しました「ああ、あわら贅沢。」の魅力を伝えるブランドサイトを立ち上げました。

サイトのトップ画面：2年前に田中光敏監督が手がけた風のダンスをバックに、ロゴマークとステイメントが表示されます。

あわらしい贅沢を紹介するコラムを更新しながら、サイトの充実を図る。

部会長（ブランド専門部会）／ブランドサイト内コラムについて報告

公開済み部分

- ① 新幹線の駅前を市民みんなでつくる、というあわら贅沢。
- ② 74もの源泉！湯めぐり文化が息づく温泉街、というあわら贅沢。
- ③ アーティストが住んで創作活動をする森がある、というあわら贅沢。
- ④ 甘くて美味しい完熟農産物を味わえる、というあわら贅沢。
- ⑤ 宅配ボックスで共働き世帯を応援してくれる、というあわら贅沢。
- ⑥ 大人気かるた漫画「ちはやふる」の世界に触れられる、というあわら贅沢。
- ⑦ 移住してきた人が充実した暮らしを楽しんでいる、というあわら贅沢。
- ⑧ 日本代表や世界一も夢じゃないカヌーの聖地、というあわら贅沢。

部会で議論してこんなものがあつた方がよいのではという意見もあり

・越のルビーとメロン、いろいろというあわら贅沢。

・湯かけまつりを見学したい、というあわら贅沢。

・各月別のあわらの魅力を伝える贅沢コラム

湯かけまつりを見学した山中さんも祭りに参加してよいコラムがかけそうだとおっしゃっていた。

他にもいろいろあると思いますので、こういったものがあつた方がよいコラムを協議してほしい。

今年度あわら市地域ブランド発信事業について

事務局：

ブランドスローガンの「ああ、あわら贅沢。」や、ステイメント、ロゴマークを市内外に広く発信し浸透させ、ふるさと愛を育てるとともに観光客の増加や企業の誘致、移住定住の推進、市全体の活性化を図る取り組みとした展開をし、第2次あわら市総合振興計画の基本理念である「暮らしやすく幸せを実感できるまち」の実現をはかることを目的としております。

条件付き公募型プロポーザル方式を採用したところ、大広北陸に決定しました。

あわら市魅力発信事業の考え方

オブザーバー：

あわらむすび project・商品開発、あわら贅沢浸透ツール・商品開発、あわら市役所装

議事録要旨

飾・ディスプレイを通じて、市民のあわら贅沢の実感と浸透を図る。

この発信事業での最終目的は、あわら市民へのブランドメッセージの浸透、市民のあわら市に対する愛着度を高めること。

●あわらむすび project

発展途上国を援助する社会貢献「TABLE FOR TWO」のおにぎりアクションのオフィシャルパートナーになり、活動支援を行うとともに、おにぎりアクションを通じた市民活動で、笑顔があふれ、人と人とのつながり、心豊かさあふれる贅沢なまちづくりを行う。

10月5日：東京永田町において記者発表

10月5日～11月15日：おにぎりアクション
(寄付つきおにぎりの販売、写真投稿キャンペーン実施。)

今後（平成31年度実施予定）はおむすびを通じて、あわらむすびフォトを募集し、掲載・配布する。集められた写真はフォトブックを作成し、あわら市の魅力を伝え、転入する方に活用。地元民には成人式の記念品として配布（予定）

あわらむすび開発・販促・PR

あわらむすび＝人と人を結ぶテーマに、あわら市の魅力・郷土愛・おもてなしの心・大切な人への感謝の思いをおむすびで表現し、それを県内外の方々に提供・発信し、あわら市のブランド振興を図るプロジェクト。

商品開発にご協力頂ける参加店・企業を募集し、おむすびであわら市を盛り上げる。

参加店には、あわらむすびの吊り下げ旗、卓上POP配布、FM福井大人めがねの番組内にて毎月第3・4金曜日（予定）にて発信。ブランドサイトにも反映し、サイトの充実を図る。また、福井新聞の雑誌fuにも掲載し、県内に向けてあわら市・あわらむすびをPR。

<質疑応答>

委員：
ブランド発信事業の内容は一般に開示するのは今回が初めてでしょうか？
市役所内で打ち合わせを何回かされての内容でしょうか？

事務局：
市民にお示しするのは今回が初めてです。
庁舎内では、大広北陸と何回か協議させて頂いております。

委員：
今年のおにぎりアクション、あわらむすび project は非常に良い内容だと思いますが、TABLE FOR TWO のオフィシャルパートナーとしての初年度の取り組みとしては、薄い内容ではないか？もっと全国に県民に市民に驚きのある企画を打ち出してほしい。その他のオフィシャルパートナーは名のある企業ばかり、全国に打ち出す良い機会なので、考えてほしい。

キャンペーン期間中（10月5日～11月15日）に費用をかけずにやっていただきたい。

議事録要旨

	<p>事務局：</p> <p>おにぎりアクション TABLE FOR TWO について説明させていただきます。この企画は今年で 3 年目。ご指摘の通り、オフィシャルパートナーは全国で有名な企業が参加しております。昨年、おにぎりアクションを考案された方があわら市に実家のある大宮千絵さんという方で、あわら市としてどのような貢献ができるか話し合いを実施。</p> <p>参画にあたって、一つは、あわら市の知名度をあげる、全国初の自治体として参加すること、それから、10 月 5 日に開催する記者発表に 5 分ほどあわら市の PR を行う。</p> <p>他の企業様は商品の PR を行うと思いますが、あわら市は市の PR を含め、社会貢献でお話したいと思います。先月の初めぐらいに TABLE FOR TWO に参画しようと決めましたので、準備期間が短い中ですが、どのような内容で PR するか、どのような内容でディスプレイするか考えております。また、いちほまれを会場内で PR することも進めて参ります。これを機におにぎりアクションとあわらむすび project をどのように結び付けていくかということをさらに強化して参りたいと思います。</p> <p>委員：</p> <p>記者発表をするということはいいことだと思いますが、残念ながらこの記者発表はごく一部の関係者に留まってしまふ。おにぎりアクションそのものが、一般的にはあまり知られていない。期間中に 1 万人ぐらい集める内容を打ち出してほしい。人が集まって効果を実証できるのでは？</p> <p>その他気になる事項として、社会貢献事業を利用して、人を集めたり、売上を上げることがよいことなのか？あとあと問題にならないのか？</p> <p>事務局：</p> <p>社会貢献を利用して PR することは、重々協議したところ問題ないのではという結論。あわら市の場合は、米の生産地ということと、あわら温泉に観光客が来られるということで、米の消費拡大、さらにはふるさと納税などとリンクできるのではないのか検討を始めております。あわら市にふるさと納税を利用して頂けたら一部が寄付できるのではないかということなどを検討しながら、自治体としての様々な可能性を探っていく。</p> <p>会長：</p> <p>おにぎりアクションは写真を 1 枚撮って送ったら、協賛企業が 100 円の寄付をする社会貢献活動。社会貢献を税金でつぎこむのは良いことなのか？ということは議論があるかと思いますが、この件に関しての予算は、あわら市の PR 費として使用する。50%は国庫の補助、公金を利用して実施。この企画に参画することで、あわら市を PR できる。広告効果は非常に高いと議会もご理解頂いている。米の消費拡大も大きな目的。JA 花咲ふくと協力して、毎月 8 日はおにぎりの日として決定している。2 年間は予算を確保している。3 年目以降はどうするか？ふるさと納税をうまく活用できないか？これから検討していく段階です。</p> <p>1 万人集めるということについて、2 年間かけて笑顔でおにぎりを食べる写真を集める。最終的にあわら市を PR する冊子ができないか検討している。あわら市民の笑顔が 1 万人集</p>
--	---

議事録要旨

	<p>められれば、すぐ素晴らしいものができるかと思います。</p> <p>委員：</p> <p>あわら贅沢リボンが実現した場合、有料もしくは無料か。</p> <p>オブザーバー：</p> <p>今年度、リボンは 45m×160 巻用意する予定です。今後、反響があれば販売することもあるでしょうが、今年度については、贈り物に活用して、「あぁ、あわら贅沢。」のロゴ・メッセージなどを浸透していくために無料にて誰でも使用できるものとして考えております。</p> <p>委員：</p> <p>社会貢献事業として、あわら市を PR していくことは理解しました。今後、おにぎりのまちとしてなっていくのか、それとも社会貢献や食育活動の面としてなっていくのか、どちらの方向に向かっていくのか？</p> <p>事務局：</p> <p>おにぎりのまちを作る事が可能かという意見もある中で、偶然ではありますが、駅周辺将来デザインにおいて伊藤デザイナーが提案されたものが採用されましたが、そのデザインの中にも、あわらむすびという言葉が出てきています。駅を降りたところに「おむすびスポット」を設けたり、気軽におにぎりが食べられたりする様子が、デザインの中に描かれております。今日の資料の中では、市内の各店舗で独自のおにぎりを作って頂くという一つの方向性としてしていますが、おにぎりというものに対する日本人の思いはどのようなものかというところで、もっとも身近にあるソウルフードであり、ファストフードでもあり。また、旅館においては夜食などの定番。親子関係としての食育とみても、おにぎりは人と人を結びやすい、地域と地域を理解しやすいツールではないかと考えており、おにぎりを選んだ最大の理由でもあります。行政が旗をふっても中々浸透しないので、今回はおにぎり project を通じて、一つは商品開発につなげたり、地元での米の消費を促すことにもなりますし、そのような方向性を見据えています。</p> <p>委員：</p> <p>おにぎりを食べる写真、笑顔があふれるまちにしたいということについて、おにぎりを使った手法で、写真を集めるのであれば、市民が体感できるようにして頂きたい。</p> <p>新しい新幹線に写真を貼って、それを市民の方が見に行き掛ける必要も必要。</p> <p>新しい駅ができ、新幹線が通るので、おにぎりと結び付けた取り組みにしてほしい。</p> <p>社会貢献については、こども給食もあるので、おにぎりを使ったあわら市内の地域のこども給食にもしっかり取り組み両立てで組み立てて頂きたい。</p> <p>委員：</p> <p>おにぎりはどんなものが売れているのか？データをとりながら、あわららしさを出していくべきでは？商品開発する人にデータをとって、提供して勧めてみては？</p> <p>オブザーバー：</p> <p>おにぎりの商品開発について、発信事業の最初の目的はどれだけおにぎりの消費拡大に貢献したかではなく、むしろあわら市民にどれだけこのプロジェクトが浸透したかを設定。</p>
--	---

議事録要旨

現段階では、売れるのが重要ではなく、市民一人一人が参加できる事業にして、おむすび開発を通じてあわらを表現する。人から人へつなげて、「ああ、あわら贅沢。」の浸透を図る。

事務局：

ご指摘のデータ収集について、データ提供をして頂けるか分かりませんが、コンビニなどに確認しチャレンジしていきたいと思います。

地元でつくるおにぎりは二通りの考えがある、とても贅沢なおにぎりをつくるのか、それともおにぎりにつまっているストーリーが贅沢なのか。どちらかという、愛情を込めた、おもてなしでつくったものであれば、販売しやすいもので提供できます。的を絞らずに多方面からチャレンジできるのかなと考えております。

会長：

おにぎりであるとかおむすびであるとかはツールの一つである。あわら市のイメージ戦略をどうするか。アイデアは次から次へとでてくる。いずれにせよ、これをつかってあわら市をPRしていく。最終的にはあわら市の経済の活性化にもつなげるべきだと考えております。

委員：

おにぎりでいろいろ準備を進めて楽しみだなと考えております。あわらでおいしいおにぎりを作っても知れ渡るのに時間がかかるとは思いますが、おにぎりは日本人であればだれでも食べるおにぎり文化があるかと思えます。おにぎりのまち=あわら市というブランディングをしていき、全国のおにぎりを集めたコンテストなどをあわらで開催し、それぞれの地域自慢のおにぎりを持ち寄って頂き、食べ比べしていただき、競い合っ、全国からあわらにおにぎりを食べに来て頂くまちの設定につながる。その際に、この年のあわらのおむすびはこれですよというものをつくっていただき、あわらの魅力を発信するイベントがよいかと思えます。

事務局：

さきほど、写真を集めるというプロジェクトがあったかと思いますが、写真を集めるのだけではなく、全国からおにぎりのレシピを集めるということも検討している。コンテストもプランの中に入れていきますし、優秀者にはあわら温泉にご招待するなど予定をしている。具体的にはこれから進めて参りたい。

委員：

いろんな切り口ができるのが、このおむすびだと思います。いずれ、HPにもおにぎり project の充実を図って頂けると思いますが、日本全国のおむすびの情報はあわらに来れば全て分かるというおむすびの聖地はあわらだとなってもらえればよいなと思えます。

ところで、あわらむすびコンシェルジェで松川さんという方がおられますが、どのような方でしょうか？

オブザーバー：

松川さんは FM 福井のパーソナリティであわら市在住の方。コンシェルジュとしての肩書きなどはまだ決めていないのですが、番組構成上、月に 2 回飲食店を回って紹介する中で、グルメリポーター的なポジションで、まわって頂こうと思えます。

議事録要旨

事務局：

松川さんはあわら湯かけまつりや観月の夕べなどのイベントでも司会を務めていただいたり、多彩な活動をしている方でございます。

オブザーバー：

北陸 3 県のラジオやテレビでご活躍している。特に松川さんはあわら市の情報発信をいろいろな番組などで対応されているあわら市応援隊の 1 人でございます。

事務局：

地域ブランド確立事業についてはこれにて終了致します。

続きまして、芦原温泉駅周辺まちづくりデザイン事業について、新幹線まちづくり課からご説明いたします。

(2) 芦原温泉駅周辺まちづくりデザイン事業について

事務局／芦原温泉駅まちづくりデザイン部会と芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会及び「芦原温泉駅周辺まちづくりプラン」素案図について説明と報告

芦原温泉駅周辺賑わい創出事業について

事務局：

芦原温泉駅まちづくりデザイン部会につきましては、芦原温泉駅周辺賑わい創出事業にご協力いただいています。

芦原温泉駅周辺賑わい創出事業では、平成 28 年度に市民投票で選ばれた芦原温泉駅周辺将来デザインの具現化に向け、「芦原温泉駅周辺整備基本計画書【改定】」で定めた「賑わいと交流ゾーン」における賑わい創出のための、機能や仕組み等を年度ごとに概算費用を含めて定める「芦原温泉駅周辺まちづくりプラン」を今年度策定します。

なお、プランの策定に当たっては、芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会を立ち上げ、芦原温泉駅周辺地区の現況の課題整理を行うとともに、市民や観光客の顧客動向やニーズ等を把握し、「交流拠点エリア」、「駅前商店街エリア」、「うるおいエリア」のエリアごとに活性化に資するためにどのような機能が求められているかを調査し、その分析結果を反映します。また、芦原温泉駅まちづくりデザイン部会を中心として、ワークショップを開催するなど、北陸新幹線開業に向けた市民の機運の高揚を図って参ります。

今年度のスケジュールと体制図については、資料 5 のとおり。

「芦原温泉駅周辺まちづくりプラン」素案図について

事務局：

続いて、9 月 4 日に開催した、第 2 回芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会のときの素案図について説明いたします。あくまでも、現時点での素案ということをお知らせいたします。

この平面計画にあたっては、昨年の市民投票のデザインイメージを基に、それから周辺の

議事録要旨

土地所有者への意向調査、駅利用者、中・高生、市民にもアンケート調査を実施し、市民の意向を取り入れこの計画に至っています。

資料 6 ～ 9 について説明

この駅周辺部のコンセプトについては、「森と共に成長するまち」でございます。サブタイトルは「広域まちづくりによる有機的複合施設のかたち」ということで、ここでいう有機的というのは、多くの物が集まりそれが一つの物を作っていて、お互いが影響し合っている様ということです。このエリアには、いくつかの機能が点在していますが、それぞれに影響し合い、全体が一つの集合体で賑わいを創出するというイメージです。それにプラスして、去年のアンケート「7年度のあわら市を計画しよう」で市の売り、誇りで意見が多かった、「自然」、また、「金津創作の森」という文化施設にもある「森」というキーワードを取り入れ、森とともに、森のようにまちが成長していく、そんな駅周辺の空間にならないかという考えで整理してございます。

計画の機能配置につきましては、おおまかに、観光案内施設といった、駅機能に直結するような機能を駅近くに、また、賑わいの創出に寄与するような機能を土地活用検討街区に配置しております。

それから、西口駐車場と a キューブの間に広場計画をしていましたが、当地域は、車利用が多い事と、賑わいの機能を西口に集約することから、計画を見直し、駐車場を拡大する計画としました。もともと広場として計画していた機能については、土地活用検討街区に移しました。

また、色の濃い所と薄い所がございます。この色分けは、事業実施時期について区別をしていることを意味しています。色の濃い所は、新幹線の開業平成 34 年度末までに完成をしたいと考えているエリアです。また、道路を挟んで上側の色が薄い箇所は、計画は今年度一緒につくりますが、整備は少し遅れる想定エリアでございます。図面では土地活用検討街区と記載してございます。

(以降、資料 6 ～ 9 について、それぞれ説明)

<質疑応答>

委員：

金津芦原線のアメリカワウの並木道のように、金津三国線もできないか。金津と芦原を結ぶ良い景観を造ってほしい。また、景観ですと、市内にあるゴルフ場からの景色はすばらしいし、芦原海岸についても、もっと注目されるべきだと考える。

事務局：

金津三国線については、県が整備しています。現時点では、街路樹の植栽が計画されているとは聞いていませんが、景観上優れたものであるということで、県には申ししていきたいと思えます。また、その他、市内の優れた景観のご紹介をいただきましたが、それについては、ブランド発信事業の方で、いろいろご紹介していくという取り組みを進めていきたいと考えています。

議事録要旨

委員：

先ほどの「あわらむすび」のソフト的な部分と今回の「整備事業」のハード的な部分とのつながりはどうなっているのか。単独・単独で走っているように感じるが、ハードとソフトのつながりが希薄ではないか。まずソフトがあって、それからハード面が整備されなければ、尖がったものはできない。

事務局：

委員おっしゃるとおりでございます。こちら「あわらむすび project」については承知しております。ソフトの充実を図りながら、飲食店、スポットに、例えば「おむすびスポット」を配置するようなことも、内部では協議しております。そうしながら、ハードとソフトの両面から、まちづくりを進めていく計画といたしております。

委員：

明日のワークショップでは、「あわらむすび」が提示されるのか。

事務局：

明日のワークショップは、芦原温泉駅周辺まちづくりプラン素案図に基づき、どういった機能が必要かということについて話し合ってください。また、「あわらむすび」についても、そういった案があるということは、参加者に投げかけます。

委員：

西口駐車場の台数は、現在より減ることなのか。旅館の送迎バスの乗り降りや駐車禁止区域についても確認したい。

現在は、東口駐車場の利便性が悪い。だから利用者が少ないと思われます。改善されるような整備を。バスの待合や通路については、囲われていないため、結局は雨や雪などで濡れることとなります。こういったことも改善が必要と考えます。

事務局：

駐車場については、10台ほど減となります。送迎バスの乗り降りについては、現在のところ2台分駐車スペースを設ける計画ですが、今後協議していきたい。駐車禁止区域につきましても、警察との協議が終わっておりませんので、後日確認いたします。

委員：

まちづくり会社について、今後のスケジュールなどを教えてほしい。

事務局：

母体は、芦原温泉駅前再興会議で、任意団体でございます。芦原温泉駅まちづくりデザイン部会長が中心となって、かつての駅前のような賑わいを創出するため、いろいろな協議をされています。将来的には、法人化を考えています。いつの時期に立ち上げるかということについては、まだまだ検討段階です。

部会長（芦原温泉駅まちづくりデザイン部会）：

行政が行わなければならない部分と民間が行わなければならない部分があるのではないかという思いがある。新幹線の整備が進むにあたって、駅前の広場であったり、これからの再開発エリアであったり、行政が行うハード整備というのは、この図面に描かれているようなこと

議事録要旨

であります。aキューブや金津本陣にぎわい広場などは、先んじて整備されているため、今後行う整備とマッチしない部分もある。そういったこともあり、aキューブを上手に活用したい。それと、県道を境に、小西食堂側の商店街については、今回の整備では示されていない。駅前のイメージは、商店街が元気でないとダメだろうということで、再興会議では、そういったことも協議している。

委員：

駅舎のデザインはいつ頃完成するのか。それがわからなければ整備のしようがないと思うが。

事務局：

新幹線の駅舎デザインは、9月中旬に機構の方から3案提示されると聞いています。少し遅れているようで、10月上旬には発表していただけたらと思っています。

会長：

機構の案に合わせた駅前整備をするものではありません。我々が検討している中間報告に合わせた駅舎を考えるよう、機構には言っております。

委員：

在来の駅はどうなっているのか。

事務局：

当初は、新幹線開業と同時に、在来線駅舎を廃止して橋上駅に移設するというので、J Rと協議を進めてきました。開業と同時に橋上駅を開設することは困難であるということと、財源がかかるのではないかとという危惧がありました。今年度、J R西日本に試算をお願いしましたところ、現在の駅舎を解体するのに15億円、新しい駅舎を造るのに15億円ということで、合わせて30億円の経費がかかることがわかりました。30億円に対しての国庫補助や交付税が返ってくる有利な起債はございません。よって、我々としては、当面の間は、今ある駅舎をリノベーションして使っていきたいと考えています。

意見交換

なし

その他連絡事項

事務局：

今後の地域ブランド戦略会議については、12月中旬と3月末を予定しています。

最後に

会長：

本日は、熱心なご審議をいただきまして、ありがとうございます。金津駅ができたのは、ちょうど120年前の9月20日でございます。私たちは、120年に一度の大仕事を行っているわけでございます。そういった意識を持って、今後も頑張って参りますので、委員の皆さまからも引き続きご指導をいただきたいと思います。